



昭和大学
SHOWA University

—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進的医療の推進
医療人の育成

発行責任者 病院長 榎 宏太郎
編集責任者 広報委員長 長谷川 篤司
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1

TEL 03-3787-1151(代表)
いちいちごいち

ホームページ: <https://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

歯科専門医制度の最新動向

補綴歯科 診療科長・教授 馬場 一美

寒さが一層厳しくなりましたが皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

さて、医療を取り巻く環境は大きく変化してきております。そうした中で、歯科医療においても専門性が重要視されるようになり、2018年に日本歯科専門医機構（以下、専門医機構）が設立され、同機構により歯科専門医制度が運用されています。

この制度は、歯科専門医の質を保証・維持し、国民に信頼され、受診先の選択に際し良い指標となることを目指しており、専門医機構により、特定の分野において高度な専門知識と技術を有する「専門医」、その資格を取得するための「研修施設」が公的に認定され、認定された「専門医」、「研修施設」については広告が可能です。

当初は、口腔外科、歯科放射線科、歯周病科、小児歯科、歯科麻酔科の5つの専門分野・領域でスタートしましたが、本年、新たに補綴（ほてつ）歯科が認定されました。補綴歯科とは、歯の一部が欠けたり歯を失った患者さんを対象として、入れ歯、クラウン、ブリッジ、インプラントなどに

より治療する専門分野です。歯を失うことによる咀嚼機能の障害や審美的な問題（見た目の問題）を解決し、健康な口腔の形態と機能を回復することが補綴歯科の目的です。



昭和大学歯科病院の各診療科には数多くの専門医機構により認定を受けた歯科専門医が勤務し、専門性・先進性の高い歯科治療を提供しております。それだけでなく口腔外科、歯科放射線科、歯周病科、小児歯科、歯科麻酔科、補綴歯科が研修施設としての認定を受け、専門医育成という面からも我が国の歯科医療の発展に寄与しております。その他の専門領域についても、歯科専門医機構による制度整備が進行中であり、順次施設認定を受ける予定です。

最後になりましたが、これからもどうぞ昭和大学歯科病院をよろしくお願いいたします。



- P1 巻頭言 歯科専門医制度の最新動向
- P2 診療科紹介 補綴歯科
- P3 歯科治療トピック 口腔腫瘍外科
- P4 部署紹介 ボイラー祭が行われました 他

記事見出しの色分けをいたしました。

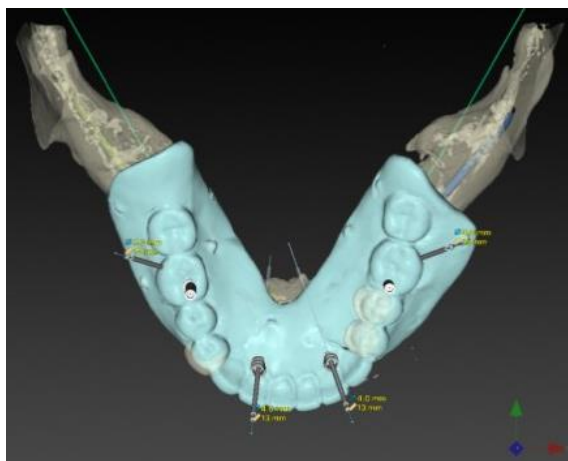
患者さん向け、医療機関向け、お知らせなど

補綴歯科は、最先端のデジタル歯科技術を駆使し、患者さんに革新的で精密な補綴治療を提供しています。

デジタルを応用した歯科治療は、従来の手法に比べて迅速かつ安全で簡便な治療が可能です。患者さんの治療に対する苦痛を緩和し、補綴装置の耐久性や美しさをも追求することが可能な新しい治療手法です。

1. デジタルインプラントプランニング

当科では、デジタルプランニングを駆使してインプラント治療を行っています。3D画像やCAD/CAM技術を利用し、患者さんの口腔構造を詳細に分析。これにより、より正確かつ安全な手術プランを立て、治療効果を最大化させます。



デジタルプランニング

2. CAD/CAMによる精密な補綴装置の製作

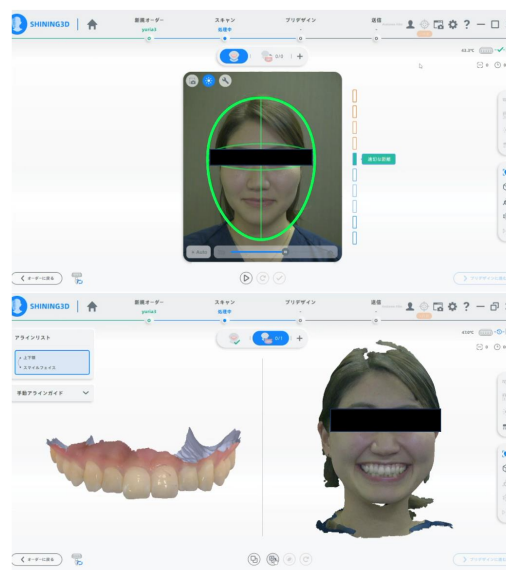
クラウン、ブリッジ、入れ歯などの補綴装置の製作においては、CAD/CAM技術を活用して精密かつ高品質な製品を提供しています。デジタルスキャニング（光学印象）により、従来よりも迅速かつ快適な型取りが可能

で、患者さんの待ち時間を短縮し、苦痛を軽減します。現在3Dプリンターの導入も進めています。

3. データの保存及び美的側面の融合

デジタル歯科治療は、患者さんのデジタルデータを大切に保管することが可能です。過去のデータを活用することにより患者さん固有の審美的機能的特徴を再現させることも可能となって来ました。

また、デジタル歯科技術は形態の回復や機能だけでなく、美的な側面にも優れた効果を発揮します。細部まで精密に設計された補綴物は、お顔のデータをスキャンすることで自然な見た目と調和した美しい笑顔を実現できるようになりました。



フェイススキャン

当補綴歯科外来では、最新のテクノロジーと経験豊富な専門医が待機し、患者さんに質の高いデジタル歯科治療を提供しています。

お口の健康とその美しさにおいて、私たちにご相談いただければ幸いです。

歯科治療トピック 口腔腫瘍外科

口腔腫瘍外科 診療科長補佐 齊藤 芳郎

私たち口腔腫瘍外科はその名の通り口腔内に発症した腫瘍を治療する科になります。

腫瘍には大きく分けて良性、悪性（がん）に分類することができますが、特に口腔がんを対象に治療を行なっています。口腔がんは小さければさほど術後障害なく治癒することができます。しかし、進行してしまった場合は食べるやしゃべるなど生活に不可欠な機能に大きな障害をきたすケースがあります。

当科ではこのような進行がんに対しても積極的に治療を行なっています。口腔がんの治療は主に手術と考えられています。手術はがんをきちんと取り去ることに加え、術後の機能障害を少なくすることを考えていかなければなりません。

例えば口腔がんの代表である舌がんの場合、腫瘍の大きさによっては舌の半分もしくは、半分以上の切除が必要になることがあります。さらに首のリンパ節に転移を起こした場合には頸部郭清術という首のリンパ節を取り去る手術が必要となります。失った組織の大きさによりますが、「食べられない」や「しゃべれない」などの障害が起きてしまいます。この障害を最小限にするために再建手

術（他組織を移植する手術）を積極的に行なっています。

また、口腔機能リハビリテーション科の歯科医師や言語聴覚士と協力し、リハビリテーションを行うことで術後の機能回復に努めています。

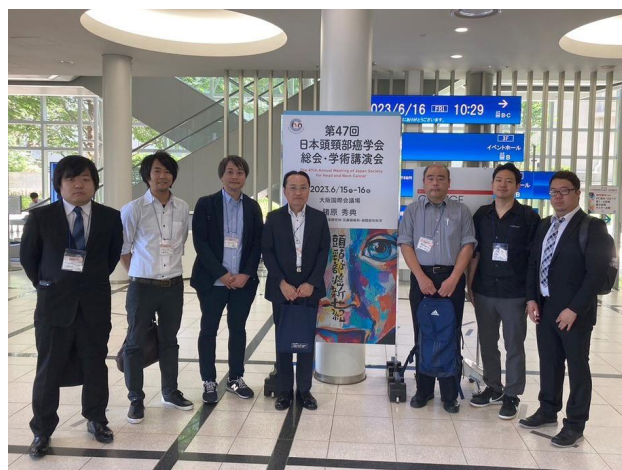
近年は口腔がんを含めた頭頸部がん領域に用いられる化学療法が目覚ましい進歩を遂げています。口腔がんは術後の再発や転移を起こした場合は予後不良とされていました。しかし、従来の抗がん剤に加えて免疫チェックポイント阻害薬（がんの免疫に関与する薬）の登場により生存期間の延長を認めています。当科でも、適応となる患者さんにはこれらの化学療法を用いて積極的に治療にあたっています。

口腔がんの発症率はそこまで高くはありません。しかし、お口は食べるやしゃべるなど生活していくために重要な臓器になります。口腔がんへの罹患はこれらに障害を及ぼす可能性があるため、早期の発見や早期の治療が望まれます。

お口の中のできものでお困りの方は、ぜひ当科を受診していただければと思います。



手術風景



頭頸部癌学会にて

ボイラー祭が行われました

事務課管理係

当院において、2023年11月7日（火）10:30より、1号棟の地下2階にてボイラー祭が執り行われました。

本格的な冬の寒さを前にしたこの時期、毎年院内の空調設備を冷房から暖房運転に切り替えています。日本では古くより、ふいごを用いる刀鍛冶などの間で、毎年11月8日になると鍛冶場を清掃し火の神に感謝する「ふいご祭」という習わしがありました。火への感謝の気持ちは、この日を日本ボイラ協会が1949年にボイラーデーと定めたこともあり、11月上旬におこなわれるボイラー祭として次第に産業界に定着していきました。

当日は、槇病院長と職員が参加し、機器の安全運転と職員の健康を祈願いたしました。



年末年始の外来診療休診日のお知らせ

事務課管理係

当院では、年末年始の外来診療は下記の期間、休診いたしますので、ご了承くださいますようお願いいたします。

ご来院の皆さまにはご不便をおかけいたしますが、ご理解のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

2023年12月29日（金）～ 2024年1月3日（水）

編集後記

急に寒さも本格的になってきました。年の瀬も迫り何かとご多用のことと存じます。皆様におかれましては、体調を崩されませんようご自愛ください。

最後になりましたが、一層のご隆盛を表心よりお祈り申し上げます。

(M.H)

